高齢者の豊かな生活のために　　２０２３年１１月１日発行

手 賀 沼 通 信（第３０８号）

Ｅメール：nittay@jcom.home.ne.jp　http://ynitta.cocolog-nifty.com/blog/　新田良昭
http://jfn.josuikai.net/semi/koyukai　http://tegatu2.web.fc2.com

今月は少子化にテーマを絞って手賀沼通信ブログからの抜粋です。

手賀沼通信ブログからの抜粋
ー日本民族は絶滅危惧種になるのではないか

世界は新型コロナウィルスによるパンデミックが収まりましたが、新しい恐怖に包まれています。

ロシアのウクライナへの侵攻に伴う核戦争の可能性が出てきました。また、ハマスとイスラエルの争いがどうなるか、先が読めません。それと別に、地球温暖化により天候や地球環境が脅かされ自然災害が多発しています。人類にとって大きな脅威となっています。

日本に目を向けると一番の問題は少子化だと思います。少子化による危機はそこまで忍び寄っています。財政の赤字、あらゆる経済活動や社会活動での人出不足、年金や医療保険や介護保険での諸問題など、いろいろ解決しなければならないことだらけです。

さらにもっと長期的には日本民族が消えてしまうのではないかという恐れです。

国立社会保障人口問題研究所の推計では、２００８年に１億２６０８万のピークだった人口が、２０７０年には８７００万人になるとしています。

歴史人口学者？の鬼頭宏氏は２１２０年には４９７３万人まで減ると推計しています。

私の勝手な想像では、核戦争や想定外の自然災害や未知のウィルスなどで人類そのものがいなくなれば別ですが、このままの状態が続けば、日本民族の人口は、２３００年代には今の中くらいの県の人口、それから２００年後には中くらいの市の人口ほどに減ってしまうのではないかと考えています。

日本民族はまさに絶滅危惧種です。おそらく日本列島は移民や他国からの移住者が支配することになっているのではないかと思います。

少子化について今まで書いたブログです。いつもと違って新しいものから並べます。

日本の人口が過去最大の８０万人の減少となる（ＮＯ．１７３０）（２０２３年７月２７日）

２０２３年７月２６日、総務省は今年の１月１日現在の人口を発表しました。

日本人は１億２２４２万３０３８人で、前年に比べ８０万５２３人少なくなりました。ピークの２００８年は１億２８００万を超えていましたが、それ以後１４年連続で減少となりました。減少数は過去最大です。

１９７３年の調査開始以来初めて、全４７都道府県で日本人の人口が減りました。東京都を除く道府県で人口の減少率が前年を上回りました。減少率は秋田県が１.７１％と最大で、青森、岩手が続いています。

昨年１年間の出生者数は７７万１８０１人、死亡者数は１５６万５１２５人で、自然増減数はマイナス７９万３３２４人で、減少幅は１５年連続で拡大し、過去最大となりました。

一方、日本に住む外国人は２９９万３８３９人で、統計を始めた２０１３年以降最多となりました。

私の感じですが、出生者数の減少傾向は今後も続くと思われますので、さらに人口減少が進むと考えられます。

２０７０年に日本の人口が８７００万人に減る（ＮＯ．１７０６）（２０２３年４月２８日）

２０２３年４月２６日、厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所が２０７０年までの日本の将来推計人口を公表しました。

推計では２０２０年の約１億２６００万人から２０７０年には約３割減少し８７００万人になります。そのうち１割は外国人が占めます。出生数

は７０年には年間５０万人になるとしています。

私が中学生のころ日本の人口は８千数百万人と学んだ覚えがあります。昭和２４，２５年（１９５０年）のころで、ちょうど第１次ベビーブームのど真ん中でした。１２０年たってその時代に戻ることになるのです。

その時代の人口がそのまま維持されてきたのなら問題は少ないのですが、人口が急増したあとで急減するのが大問題なのです。

人口増加に伴って社会のインフラや制度やシステムの進化と増加、都市の拡大が進みました。それを維持するためには人口が減ってはダメなのです。

いま直接の影響が各自治体の水道施設の維持管理に出ています。年金制度、医療保険制度、介護保険制度の維持のために保険料が上がっています。各産業や企業で人手不足が顕著になってきました。高齢化が進み、働き手が減っているためです。

世界では各地で戦争が勃発し平和が脅かされていますが、日本では少子高齢化が一番の問題と思います。早く手を打たねばなりません。それぞれの世代によってできることは違いますが、自分たちに何ができるかを真剣に考えて行動することが必要です。のんびりしている時ではないと思っています。

少子化のスピードが加速している（ＮＯ．１６６５）（２０２２年１２月２２日）

２０２２年１２月２０日、厚生労働省は人口動態統計速報を発表しました。今年の１０月までの出生数は約６７万人で昨年同期より約３万４千人少なく、この傾向が続けば年間の出生数は昨年の約３１万人を割り込み初めて８０万人を下回る公算が大きいとのことです。

従来の少子化傾向に加え、２０２０年からのコロナウィルスによる影響で、結婚や妊娠を控えるケースが影響したと考えられます。ますます少子化のスピードが加速していると考えてもいいでしょう。

過去の出生数と合計特殊出生率（１人の女性が生涯に出産する数）を見てみましょう。

年	出生数	特殊出生率
・１９４９	２７０万人	４.３２
・２０００	１２０万人	１.３６
・２０１０	１０７万人	１.３９
・２０２０	８４万人	１.３３

となっています。１９４９年は戦後のベビーブームの年で過去最高でした。その後着実に少子化現象が現れています。

厚生労働省のホームページを見ると、人口減少と高齢化率の予測が出ています。

年	人口（万人）（億.万人）	７５歳以上（%）	６５－７４歳（%）
・２０２０	１.２６１５	１５	１４
・２０２５	１.２２５４	１８	１２
・２０４０	１.１０９２	２０	１５

このまま手をこまねいていては日本の社会保障制度の崩壊につながります。政府も国民も少子高齢化社会の危機を自覚し、政府は対策を打ち、国民は自衛手段を考える必要があります。

私たち高齢者はもう当事者ではありませんが、せめてもっと多くの若者が結婚してもっと多くの子供を産めるような社会にするお手伝いくらいはできるのではないかと思っています。

日本の高齢者が人口の２９％、「超々高齢社会」へ（ＮＯ．１５１２）（２０２１年９月２０日）

総務省は９月２０日の敬老の日に合わせ６５歳以上の高齢者の推計人口（９月１５日現在）を発表しました。高齢者は前年比２２万人増の３６４０万人、総人口に占める割合は２９.１％となり、過去最高を記録しました（この数字を高齢化率と言います)。ダントツの世界一です。

世界での高齢化率を調べてみました。世界の統計を発表しているグローバルノートによると、２０２０年の主な国の高齢化率は次のようになっています。

１　日本　２８.４
２ イタリア　２３.６
３ ポルトガル　２３.１
６　ドイツ　２１.７
１１　フランス　２０.７
２９　イギリス　１８.７
３９　アメリカ　１６.７
４３　韓国　１５.８
６４　中国　１２.０

日本と合計特殊出生率がほとんど変わらない韓

国でさえ４３番目です。

高齢化率が７％を超えると「高齢化社会」、１４％を超えると「高齢社会」、２１％を超えると「超高齢社会」と言います。日本は２８％を超えているので「超々高齢社会」と言ってもいいのではないでしょうか。もっともこれは私の造語なので社会ではまだ通用しません。

日本が７％を超えたのは１９７０年、１４％を超えたのは１９９４年です。わずか２４年で１ランク上げました。ドイツでは４２年、フランスでは１１４年かかりました。

なぜ日本がこれほど高齢者の割合が増えたのでしょうか。以下も私の独断ですが、まず当たっていると思います。

原因は

１　日本は平均寿命がほぼ世界一長い

２　若い人が結婚しない、または諸事情で結婚できない

３　結婚しても子供を産まない、または諸事情で産めない

ことだと思います。

高齢化が進むと、年金や健康保険制度が成り立たなくなる。人口が減り社会の活力がなくなる。経済活動が衰退し、世の中から消えてしまう産業や企業が増える。など深刻な問題が出てきます。

私のように８０歳を超えた人間はもう出番はありませんが、政治家や若い世代の人たちは真剣に考えてほしいと思います。

少子化がどうにも止まらない（ＮＯ．１３０２）（２０１９年１２月２６日）

２０１９年１２月２４日、厚生労働省が２０１９年の人口動態統計の年間推計を発表しました。

・出生数　８６万４０００人（過去最少）
・死亡数　１３７万６０００人（戦後最多）
・自然減数　５１万２０００人（過去最多）
・婚姻件数　２１万組（戦後最少）

出生数は過去最少となり、２０１７年に国立社会保障・人口問題研究所が発表した将来推計より２年早く８６万人台になりました。

この推計では合計特殊出生率を高位（1.６５）、中位（1.４４）、低位（1.２５）の３通りで行なっています。２０１８年の合計特殊出生率は1.４２でしたが今年は低下する見通しなので、２０６０年には中位での推計数の９２８４万人と低位での推計数の８７６３万人の間くらいになるのではないかと考えられます。今後４０年で、私が中学生だった約６５年前くらいの数字になるのではないでしょうか。それから先も考えるのも恐ろしいくらいのスピードで少子化が進むと思われます。

今は男女の学歴差はありません。また専業主婦もほぼなくなっています。私見ですが少子化の原因は３つあると思います。

１つ目は結婚しない男女が増えていることです。男性も女性も結婚に必ずしも夢や楽しさを見つけられなくなっています。むしろ煩わしさを感じたり、経済的なマイナスを感じる人が増えているのではないでしょうか。

２つ目は育児は女性がするものという考えが、社会にも企業にもそして男性にもあるということです。女性が働きながら育児をすることは、心身ともに大変なことです。それを認めるほど進化した社会にはなっていません。

３つ目は女性が働きながら育児を円滑に行える制度が足りないということです。出産休暇、育児休業、保育園、職場復帰等まだまだ不十分です。ヨーロッパに普及している男性の育児休業などは日本ではゼロに等しいのではないでしょうか。

もう私たち老人の出番はありませんが、今の現役世代、若者たちは自分に降りかかってくることという自覚をもって少子化問題に取り組んでほしいと願っています。

日本の人口はどうなるか（ＮＯ．１２４１）（２０１９年６月８日）

厚生労働省は２０１９年６月８日、２０１８年の人口動態統計（概数）を発表しました。

・出生数　　９１万８３９７人
・死亡数　　１３６万２４８２人
・自然減　　４４万４０８５人
・出生率　　１．４２

出生数は統計を取り始めた１８９９年以降で最少、死亡数は戦後最大、出生率は１人の女性が生涯に産む子供の推計を示す合計特殊出生率のことです。

自然減は死亡数から出生数を引いた数で、４０万人を超えたのは初めてです。出生率は３年連続で減少しています。この数字が２以上にならない

と人口減少が進みます。少子高齢化社会が急速に進むのが目に見えています。

人口動態統計には総人口は出ていません。統計局ホームページによると

・令和元年５月１日の総人口（外国人を含めた日本に在住する人口）（概算値）　１億２６２０万人

・平成３０年１２月１日の総人口（確定値）　１億２６４３万５千人

・平成３０年１２月１日の日本人の人口（確定値）１億２４１４万４千人

となっています。

将来の人口はどうなるかを調べてみました。国立社会保障・人口問題研究所が平成２９年に「日本の将来推計人口」を出していました。将来の出生推計・死亡推計についてそれぞれ、中位、高位、低位の３仮定を設け、それらの組み合わせにより９通りの推計を行っていました。これは外国人を含めた日本に在住する総人口です。日本人だけではありません。

今の世の中を考えるとまず出生高位ということは考えられません。２通りだけ選んでみました。

出生中位・死亡中位の場合

２０５０年	２１００年
１億１９２万３千人	５９７１万８千人

出生低位・死亡中位の場合

２０５０年	２１００年
９８１７万２千人	４９０６万４千人

日本人の人口減少傾向は変わらないと思いますが、ただ今後の外国人の在住の条件が変われば総人口は変わる可能性があります。日本も移民を受け入れる国になるのではないでしょうか。

２０１５年国勢調査初の人口減少（ＮＯ．８９１）（２０１６年２月２７日）

平成２８年２月２６日、２０１５年の国勢調査の速報値が総務省より発表されました。

昨年１０月１日現在の日本の総人口は１億２７１１万４７人（男性６１８２万９２３７人）、女性９５２８万８１０人）で、１０年前の国勢調査より９４万７３０５人（０.７％）減りました。

総務省の人口推計では日本は２０１１年から４年連続で人口減少が続いているとみられてきました。今回の調査で日本の人口減が初めて裏付けられました。国勢調査で人口減が記録されたのは１９２０年（大正９年）の国勢調査開始以来初めてのことです。

１０年前の調査と比べると、人口が増えたのは、東京、神奈川、埼玉、千葉の首都圏と愛知、滋賀、福岡、沖縄の合計８の都県で、３９の道府県で人口が減っています。首都圏への一極集中が顕著になっています。

ここで人口の経緯を見てみましょう。これは国勢調査ではなく国立社会保険・人口問題研究所の統計によっています。

・１９１５（大正２）年　約５１３１万人　今から１００年前

・１９３７（昭和１２）年　約７０６３万人　私の生まれた年で日中戦争が始まった年

・１９４５（昭和２０）年　約７２１５万人　太平洋戦争終戦の年

・１９６４（昭和３９）年　約９７１８万人　東京オリンピック開催の年

・１９６７（昭和４２）年　約１億２０万人　人口が初めて１億人を超えた年

・２００８（平成２０）年　約１億２８０８万人　人口がもっと多くなった年

２００９年から減りはじめ、２０１０年に多少増えましたが、２０１１年からは連続して減っています。

２０６０年には人口問題研究所は約８６７４万人まで減ると予測しています。これは１９５３（昭和２８）年とほぼ同じ人口です。私の高校時代です。

少子化をストップする道はこれからの若者の行動にかかっています。

「若者よ現実を理解し、結婚して子供を産め」と声を大にして言いたいです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

上記以外にも次のブログを書いています。

・２０２２年の出生数が８０万人を割った（２０２３年３月１日）

・子供の出生数が過去最少、死亡数が過去最多で人口減少がどうにも止まらない（２０２２年６月５日）

・人口減と東京一極集中の行きつく先は？（２０２０年８月１０日）

・出生率と拉致問題はどうにもならないのか（２０２０年６月６日）